

会 報 第 82 号	Mt. Iwaki Conservation Association 岩木山を考える	2020 年 9 月 24 日 発行 岩木山を考える会 会長 小堀英憲
--------------------------	---	---

第4回講座 白岩森林公園散策とキノコ汁

猛暑がようやく過ぎ去り、ブナ林の黄葉が始まると津軽地方の秋は次第に深まっていきます。今年岩木山を考える会では、平川市の白岩森林公園の山野草や木々の果実を観て、森林浴に癒されながら散策した後、秋の味覚キノコ汁を味わう観察会を企画しました。皆様お誘いあわせの上ご参加ください。

期 日 10月18日(日) 10時～14時
 集合場所 白岩森林公園駐車場10時集合
 持ち物 雨具・長靴または登山靴、ごはん(昼食)
 参加費 500円(保険代・きのこ汁代)
 申込み 竹浪 純 電話 070-6952-2614
 申込締切日 10月15日(木)

第5回講座 廻堰で岩木山と野鳥を観る

一昨年から三年連続での開催となりますが、野鳥の会弘前支部の方々の協力で、津軽富士見湖だけでなく周辺の田んぼに入っているガンの仲間を間近で見せていただき、普段見ることのできない鳥の姿を見ることができ、参加者が興奮しているのが印象に残っております。今年も野鳥の会にご協力頂き、ガンやカモの仲間をたくさん見せてくれると思います。是非ご参加ください。

期 日 11月15日(日)10時～12時
 集合場所 廻堰駐車場
 持ち物 雨具、防寒具等
 申込み 小堀英憲(090-6451-0793)
 申込締切日 11月8日(日)

第6回講座 座学「岩木山の植生・特徴と将来」

久々に座学を開催します。講師は、弘前大学農生科学部 白神自然環境研究センター教授の石川幸男先生です。津軽を代表する山岳である岩木山では、標高が上がるにつれて下方の冷温帯林から亜高山帯、山頂部の高山帯へと推移します。主要な植物群落の特徴を解説していただくと共に、地球温暖化に起因して懸念される変化などを紹介していただきます。どうぞ、お知り合いをお誘いの上ご参加ください。

日 時：12月19日(土)13時30分～15時30分
 場 所：弘前市民会館大会議室
 講 師：石川幸男氏
 (弘前大学農学生命科学部 白神自然環境研究センター教授)

令和2年度岩木山環境保全協議会総会に出席して

令和2年8月25日弘前市役所に於いて、10時から協議会メンバー11団体中8団体が出席して開催されました。岩木山を考える会からは、阿部幹事・金枝が出席しましたので、会議の様子を報告します。

議事次第は下記の通とおりです。

1. 令和元年度事業報告について

お山参詣山頂警備を日赤岩木山パトロール隊が中心となって登山者の安全・誘導を行なった。また、既存マップを追記修正し、登山マップ5500部を作成。

2. 令和元年度収支決算の承認について

3. 令和2年度事業計画(案)の審議について

事業方針として、引き続き、整備が必要な箇所の確認・検討をするとともに、協議会として可能な範囲で登山道整備に協力していく。また下記事業を行なう事で確認されました。

①お山参詣山頂警備 お山参詣は、コロナ関係で規模を縮小して実施することから、警備は例年どおり実施。

②登山道・看板等整備

③ヒュッテトイレ用 EM 活性化液 薬品購入

④登山道補修原材料等購入

4. 令和2年度収支予算(案)の審議について

看板整備費の額が足りないのではとの質問が出されましたが、事務局より他から流用し対応することとて当収支予算(案)どおり決まりました。

5. 役員の改選 全て再任ということで決まりました。

6. その他

事務局から今年度岩木山環境保全関係事業についての説明の後、「今後の岩木山の環境保全のあり方や登山道の整備」について各団体からの意見が出されました。岩木山を考える会からは通常総会への意見として、「登山道路5ルートの調査・避難小屋で気づいたこと・登山者の把握啓発活動・登山道路の整備のあり方等」を要望・提案として提出しています。

会議の中で出された意見等は概ね下記のとおりです。

- ・少しずつ直しても追いついていかない。一気に直すとかする必要がある。
- ・県・市に何回も要望しているが実現していない。体制が問題。
- ・今年5件の事故があつて、観光面では新規の方が多い。整備のレベルが問題。
- ・案内標柱に時間が記載されていて、短時間で山頂までいけるものと思い、ロングスカート・通常の靴での女性が登っていた。表記の仕方に問題がある。
- ・登山道の管理は市・県等がやるべき事で、他県の状況を参考とすべきだ。
- ・県は、どういった体制がいいのか他の事例もわかっているだろうから提案してほしい。
- ・来年度は県観光企画課も参加するようにしたい。

各団体からいろいろ意見が出されましたが、登山道の点検・整備が各団体に依存していて、「国定公園の中での整備の在り方等他の事例を参考とすべき」「管理体制に問題がある」など岩木山をどのように整備・管理すべきなのかと言った根本的な意見が出された会議となり、1時間程で総会は終了となりました。

金枝 壽孝 記

弥生スキー場跡地の調査活動10年目に入る

弥生ネット主催で当会が協力し、毎年弥生スキー場跡地の観察会と並行して実施してきた調査活動ですが、今年は新型コロナウイルスの影響で観察会が中止となったため、4つの調査を独自に行いました。

植物調査：6月8日、当会会員で植物の造詣が深い石戸谷氏、松本氏に協力いただいた他、日頃植物観察に取り組んでいるお二人が参加、事務局の竹浪と合わせ5人で行いました。調査は市が行っている観察会のコースで行い、歩きながら目に入った全ての植物の種名を書き留めていきます。実際には、調査者が見つけた植物の種名を声を上げて話し、他の調査者が確認、事務局が記載する、というやり方で進めていきます。胸にはルーペと双眼鏡をぶら下げ確認をしながら進めます。今回は、219種の植物を確認。2011年から始めた調査の中で2番目に多い確認数でした。今回ウラジロヨウラク、コウボウ、コウヤワラビ、タチタネツケバナ、ノビル、ミヤマベニシダ、ヤブカンゾウの7種が新たに確認されました。

生物調査：6月9日、阿部東幹事が実施しました。調査場所は同じく市が行っている観察会のコースの虫が出やすそうな場所で、数日前にトラップを10個仕掛けておきました。トラップは使い捨てのプラスチックコップで、中にエサを入れて口のところまで地面に埋めておきます。昆虫が匂いを嗅ぎつけ寄ってきてコップに落ちる、という簡単な仕掛けです。今回確認できたのは6種で、そのうち初めて確認できたのがムツクロナガオサムシという、オサムシ科の昆虫で、*neputa*という学名がついており、これは「ねぶた」から来ているのだそうです。青森県で発見されたのでこんな名前がついたのでしょうか。



ムツクロナガオサムシ

野鳥調査：2013年から始めた野鳥調査も8年目に入りました。これまで65種の野鳥が観察されており、6月9日に実施した今回は30種を確認しています。今回新たに確認した野鳥はヤマドリ、ニュウナイスズメの2種です。「確認」と簡単に言いますが、そのやり方はほとんど「耳」の力です。当会の小堀会長と土岐監事が聞き分けて下さっているのですが、65種もの野鳥を鳴き声で聞き分けられるなんてすごいですね。

調査の4つめは**毎木調査**です。跡地に3か所調査区域を設定し、各区域ごとに10本の対象木を決め、胸高の周囲を測定しています。2010年11月から始めたこの調査ですが、10年6か月で、平均周囲が21.5cm太りました。去年から今年にかけての1年間で1cm4ミリです。この10年間で4本の対象木が倒れています。樹種ごとに成長の度合いを比べてみたところ、ハンノキが徐々に成長が鈍化してきているのに対し、クロマツは平均して成長しているなど樹種による特徴が見て取れました。

当会は引き続き弥生ネットの調査活動に協力していきます。

竹浪 純 記

今年も岩木山登山道の調査をしました

1. 追子森登山道

(ア)調査日:6月21日(日)

(イ)調査者:竹浪純、同行2名

(ウ)経路、所要時間: 登山道入口～頂上まで2時間15分

頂上～二子沼まで1時間40分

二子沼～西岩木山林道まで20分

(エ)道の様子

男性1女性2の3人で出発。ゆっくりとしたペースで歩きながら、径を確認する。

コンクリート舗装の林道から追子森への登山道への分岐(640m)には目印のリボンが2つ取り付けられており、歩いたことがある人なら迷うことはないが標識は必要だ。しかし登山道に入っても道はしっかりとつけられている。

二子沼への下側分岐は直角に右折する。まっすぐ行ってしまうように木の枝を厚めに横に寝かせて置いてある。ここも標識は必要な個所だ。右折することが判るようにリボンを右折先の2か所につけておいた。

890mからの直登の道は、去年大風でブナが倒れて道をふさいでおり、潜り抜けて通っていたのだが、きれいに片づけられていた。途中1か所だけ細い木が倒れていたが、またいで歩ける。頂上付近のコメツガの大木が雪のためか折れ曲がって倒れていた。歩くのには支障なし。頂上まで楽しめる道が続く。

下りは、二子沼への分岐から小白沢をまたぐ手前は、陽が当たる場所となっており、かなり草が生えてきていた。刈り払いが今後必要だ。小白沢をまたぐ道は、沢にぶつかる5mほど手前を左に降りるのだが、草に覆われ目印が目立たず、降りる位置を探すのにしばらくうろうろした。誰もが判るように新たにリボンを2か所につけておいたので、迷うことはないだろう。沢を渡り沢の右岸をしばらく歩くと、林道にぶつかる。ぶつかったところの正面の木に印がついており、そのまっすぐ先の木にも目印がついており細い道が続いているので、林道沿いに右折するのではなく、細い道を直進するのだということがわかる。道は枯れ葉の踏み跡となっており、気をつけないと道を踏み外し



そうになる。途中不明瞭な場所1か所に目印のリボンをつけておいた。そこ以外は迷わず歩ける。踏み跡に沿って歩くと、間もなく二子沼の上沼に着く。但し、径は沼から少し離れてついているので、GPS等がないと見逃す恐れがある。しかし、そのまま歩くと下沼の付近を通るのでここは見逃すことはないだろう。二子沼から下方はしっかりした道がついているが、最後の急坂を降りる場所では、新たな迂回路の目印がつけられていた。目

印に沿って降りたつもりだが結局道を踏み外してしまった。しかし大きく迷う場所ではないので大丈夫ではある。ここは分かりやすく工夫をする必要がある。

(感想) 全体的になだらかな斜面、頂上付近は野外の石庭と見まがうような落ち着いた雰囲気、他の登山道とは違い、気軽に登山を楽しめる道だ。追子森往復だと3時間程度で可能だし、二子沼に回れば、ブナ林と静寂な沼の自然を味わうことが出来る。標識を整備して、是非登山道の一つに名を連ねてほしいものだ。鯉ヶ沢町への働きかけがあってもいいかもしれない。

2. 嶽登山道

(ア)調査日:6月24日(水)

(イ)調査者:竹浪純

(ウ)経路、所要時間:岩木スカイライン8合目まで小堀会長の車に乗せてもらい、8合目から登山道を下りながら調査。

1時間55分で嶽温泉駐車場着

(エ)道の様子

登山道は標高810m付近でブナの大木が2本歩道に倒れ掛かっており、危険回避のため付近がテープで囲われ立入禁止とされ、迂回路が設置されていた。笹の刈り払いが行われ大きな崩れ箇所も見当たらず、特に問題箇所なし。

湯ノ沢分岐を横切る幅3~4mの作業道が作られていた。たどってみたところ、ブナの大木などを切り倒し斜面を切り崩し道にしている。嶽温泉の源泉の上流に当たる湯の沢堰堤付近で左岸の従来からある林道につながっていた。津軽森林管理署に電話で問い合わせたところ、以下のような事情だった。

2019年度、11~12月に湯の沢分岐の山に向かって左手にあるカラマツの造林区の間伐作業を行った。間伐をしないと木が混みあい太くならない。その際に、間伐材の搬出道としたものである。搬出ルートを検討に当たっては、嶽温泉の源泉に影響がないように旅館組合と話し合いをし、また、瑞穂、羽黒方面の飲料水、養殖などへの影響について地元の方々と話し合いをした。湯段沢の方面は民有地となっており、搬出路をつけることが出来ないで、カラマツ造林区から先は行き止まりとしている。

搬出した材は既存の林道の横に積み上げており、5、6月に売ったのでそのうち移動されると思う。

今後の間伐は10~15年後に行われることになると思われ、その際はまたこの作業道を使う予定。この付近は皆伐とせず、間伐をしながら徐々に広葉樹に戻していく方針だとのこと。

(感想) 山体の斜面が切り開かれ、広葉樹が切り倒されている



姿は無残だが、森林環境、地域への影響を最小限にとどめようという努力も窺われ、

やむを得ないものと思われる。作られた作業道により周囲の環境変化が起こらないか見守る必要がある。

3. 百沢登山道

(ア)調査日：6月24日（水）

(イ)調査者：竹浪純、同行者1

(ウ)経路、所要時間：岩木スカイライン8合目まで小堀会長の車に乗せてもらい、8合目から鳳鳴避難小屋まで登り、そこから百沢登山道を下りながら調査。
鳳鳴小屋から3時間で百沢スキー場駐車場着

(エ)道の様子

避難小屋から種蒔苗代に降りる途中の風穴近く、若干道が崩れ気味の場所あり。その下方の道の土留めの丸太を止める針金が外れ片方が浮いていた。整備の要あり。

種蒔苗代から200mほど下ったあたりから雪渓が残っていたがツボ足でおりる。ところどころ登山道が顔を出していた。大沢の入口から200mほど上方の右岸の岩を伝う部分は相変わらず危険を感じるので、鎖を取り付けるなど安全対策を求めたい。当該の場所の左岸の大岩が崩れて落下し、沢の真ん中に二つの大岩が転がっていた。幸い登山道には影響していない。今後、左岸に残っている岩が崩れて来る可能性があるので、監視が必要。

焼止避難小屋は、看板が剥がれ落ちたままになっており、取り付け修理を願いたい。併せて、2階入口の折れたコンクリート庇の修理もお願いしたい。

焼止避難小屋から姥石は、気がかりな部分は特になかった。

姥石から鼻コクリに至る緩斜面と、鼻コクリを終えて沢を渡った後の緩斜面は、一部赤土がむき出しになっている場所があり、登りはともかく下りは雨などで路面が濡れると相当滑りやすく、危険を感じながら降りてきた。段をつけるなどなんらかの工夫が必要では？

カラスの休場からスキー場入口までは気がかりな部分は特になかった。

(感想)平日の午前中上から下りてきたわけだが、途中、登ってきてすれ違った人が4人いた。そのうち一人の老人は長靴を履いていた。登りはともかく、下りは相当滑るのではないかと危惧された。百沢登山道は雪渓が残っているうちは、急斜面の沢の上を歩くことになるので、装備の留意点、滑落や雪渓を踏み抜いての事故などの注意を促すことが必要だ。

4. 弥生登山道

(ア)調査日：7月7日（火）

(イ)調査者：竹浪純

(ウ)経路、所要時間：岩木スカイライン8合目まで車に乗せてもらい、8合目から頂上まで登り、そこから弥生登山道を下りながら調査。
頂上から2時間45分で弥生いこいの広場駐車場着

(エ)道の様子

弥生登山道は9合目から少し登ったところのザイルを止めている鉄柱が2本抜けて倒れていた。不用意につかまったりすると危険である。(その後、津軽百年の森が修理したとのこと)

耳成岩の下を横断する部分については、去年の調査で危険が予想されるので立て札で注意喚起すべきと要望し、そうすることになったはずだが、立て札は見当たらなかった。道から下方部分全体が下に少しずつ動いているのか、道のへこみが去年より増えているようだ。この部分に取り付けられているザイルを止めている鉄柱が1本すぐ抜ける状態になっている。ザイルに力がかかると鉄柱が抜けてくる状態で危険である。

8合目から少し下がった部分、道の中央を水が流れるにつれて次第に深く掘られてきており、相当歩きにくくなっている部分も一部あった。歩きやすくするためには道幅を拡げなければならず、どうするか検討が必要である。8合目から6合目にかけは、生い茂って来る竹藪が刈り払われており、道をたどることが出来る。下ってくる途中、注意深く下りたつもりだが何度か刈り払われた笹の丸い茎に足を乗せて転びそうになった。歩きにくい。下りは転倒に注意が必要。

6合目からは次第にササも少なくなり、歩きやすくなってくる。5合目から3合目にかけは去年の秋に落ちたブナの枯れ葉が一面に敷き詰められた道を歩く。登り、下りとも迷わず歩くことが出来る。3合目から下は新道と旧道に分かれる。新道は歩きやすく整備されている。

(感想)弥生登山道新道は、5合目まではとても気持ちよく歩ける道だ。5合目からは少し陰しくなり、6合目からは、道をふさぐササダケを、整備委託を受けている団体が刈り払っており、その苦労が想像される有様である。歩きやすいとは言えない道であるが、迷わず8合目までたどり着くことが出来る。8合目から9合目は「崩落に注意して歩いてください」の標識が必要。また、取り付けてあるザイルもところどころ杭が抜けており、それに頼る登山者はバランスを崩す恐れがあるので早急に整備が必要である。

5. 赤倉登山道

(ア)調査日：7月12日(日)

(イ)調査者：荒川修、竹浪純、同行1

(ウ)経路、所要時間：岩木スカイライン8合目まで車に乗せてもらい、8合目から頂上まで登り、そこから赤倉登山道を下りながら調査。途中キレットに立ち寄る。
頂上から5時間で赤倉神社駐車場着

(エ)道の様子

頂上から赤倉登山道を下ると、9合目のテラスの少し上方、礫を含む土がむき出しになっている場所は、特に土留めなどに工作物もなくミチノクコザクラが群生し、とてもいい環境なのだが、通行者が増えるにつれ、土が流れていかないか心配。環境が変化しないか見守る必要がある。

テラスから小山を一つ越えることになるが、樹木と草木の繁茂で道が見えないほどになっている。小山を越えて大鳴沢の源頭迄の急な下りは、笹が茂り足元が見えない状態。

大鳴沢には雪渓がまだ残っていたが、登山道にピンクのテープがつけられており、迷う心配はなかった。

大鳴沢源頭から赤倉御殿までは樹木と草木をかき分けて歩かなければならない状態だ。登山者によるものと思われる、伸びてきた灌木の枝が切り取られて道に落ちていた場所も何カ所か見られた。

赤倉沢右岸、26番観音付近の崩落状況を確認するため、赤倉御殿から赤倉キレ

ットまで下りてみたが、濃いガスがかかり観察することが出来なかった。

赤倉御殿から鬼の土俵までの赤倉沢右岸尾根の道は全般的に樹木と草木が繁茂しており、計画的な刈り払いが必要な状況である。途中、コメツガが倒れて道をふさいでいた。撤去が必要。

26番観音付近は、とりわけ道が細く草木の茂みの中を歩くような状態である。広い迂回路がつけられているので、そちらを歩くことを奨めたい。但し、笹の刈り跡が荒いので整備は必要である。

鬼の土俵から30mほど下がった見晴らし台までも周りから伸びてきている草木をかき分けながら歩く状態である。そこから下、伯母石まではいくらか歩きやすくなる。

伯母石から赤倉神社までは常識的な登山道となり、静寂なブナ林を通り抜ける楽しさが味わえる。

<感想>人の手が入っていないことから、鬼の土俵の下あたりから9合目あたりまでは、全般的にジャングル並みに樹木と草木が繁茂してきている。赤倉登山道の特徴である、観音像1～33番も途中、草木に覆われて見えなくなっている場所もある(見えなくなっていると確認できたのは、大開の23番、24番、赤倉御殿手前の27番。それ以外にも壊れたところを除き、場所を確認できなかったところもあった)。観音像を目当てに訪れる人もいると思われるので、一定の整備は必要ではないか。

6. 長平登山道

(ア)調査日:7月20日(日)

(イ)調査者:竹浪純、同行2

(ウ)経路、所要時間:岩木スカイライン8合目まで車に乗せてもらい、8合目から頂上直下の長平登山道分岐まで登り、そこから長平登山道を下りながら調査。
頂上から3時間25分で鯉ヶ沢スキー場駐車場着

(エ)道の様子

長平登山道分岐から北北西方面に急な下り坂が続く。岩と土でしっかり踏み固められた道で、道の両側から伸びてきている草が少し邪魔な以外は気分的に楽に下ることが出来る。但し、道の谷川は灌木で見えないが切り落としの斜面となっており、気を付けて歩くことが必要だ。

途中「山の神石」が巨大な姿を現す。草が生え茂っている季節は見通しが悪いが、それ以外の季節には離れたところから記念写真を撮ることが出来る、お奨めのスポット。次第にコケがついた岩が多くなるので、湿っているときは滑りやすいので注意が必要だ。

西法寺平では道の両側にまだミチノクコザクラが満開だった。西法寺平から再び岩が続く急斜面を降り下る。今年はまだ刈り払いの手が入っていないらしく、ハリギリなどの大きな葉が目の前に現れる場所もある。振り払ったり、茎をつかもうものなら、大変痛い目にあうことになるので注意が必要だ。ここも岩が滑るので注意をして上り下りする必要がある。浮石などはほとんど見られなかった。

急斜面を下りると、眼前に西法寺森が姿を現す。道は西法寺森を北西に回り込みながらつけられている。一本道なので迷う心配はない。回り込む道は平たんで、両側にミチノクコザクラが咲き乱れている場所もあった。

西法寺森を回り込み隣の尾根にとりつく部分はササが密生しており、刈り払われてはいるものの滑りやすい。道自体も少し崩れており、10m程は山側の笹につかまりながら

渡ることになるので、注意が必要だ。

そこを過ぎると再び道は歩きやすくなる。ここからは笹藪となっており天井をササが覆う。しかし歩く道はきれいに刈り払われており、笹藪のトンネルを歩き続けるという不思議な体験をすることが出来る。水場に近づくと巨大なミズバショウの群落が左右に現れ度肝を抜かれる。道が沢と一体となっている部分もあり、足元は悪くなるがその先に水場がある。

登山地図などに出て来る地図にも水場が記されているが、記されている場所はやぶをこいで入って行かなければならないので、こちらがお奨めだ。道の真ん中に小さな祠が置かれており、ここで一休みしてはどうか、と勧められているようだ。

ここから先はしっかりした登山道が続く。標高890mあたりで登山道はスキー場に抜ける。抜ける手前30mほどに小さな沢が道を横切っており、その沢の山側で水を汲むことが出来る。

登山道がスキー場に抜けたところから、日当たりが良くなるので草が茂り放題となっており、スキー場の作業道にぶつかるまでの100mほどは足元もみえない様相だった。登山道を下ってくる場合は道をたどれるが、登る場合は登山道に入る道を通り過ぎないようにしなければならない。作業道を進んでも登山道には続いていない。あと留意が必要なのは、登山道がスキー場から再び林に入っていく場所だ。登る時は問題ないのだが、下って来ると、先ほどと同じように作業道から登山道に入る道を通り過ぎかねない。この二つの地点は、是非標識を取り付けていただきたいところだ。

登山道に入って下りていくと、石神様の奥院が見える。奥院の背後には、注連縄でまつられた巨石群が鎮座している。いちどは足を運んでみることを奨めたい。奥院への道と分岐している地点に登山道の標識が立てられているので、登りの登山者は迷うことはないだろう。奥院から5分程度歩くと石神様の広場に出る。石神様のスキー場側山手にも巨石群がまつられている。神秘的なパワースポットで、ここも是非一度は訪れてほしい場所だ。

石神様から駐車場までは、なだらかな広い道路が続いており、砂利で整備されているので石神様までは4輪駆動車であれば上がってくることが出来る。

<感想>思った以上に整備されており、比較的安全にあることが出来る。地元の方々の努力に感謝したい。途中の見どころも他の登山道に比較して多いのではないだろうか。ただ、今年に入ってまだ刈り払いの手が入っていないのが気がかりだ。とりわけ、スキー場を通る場所は刈り払いが必要だし、標識の取り付けも必要だ。せっかく長平の麓から登り始めてもスキー場で迷ってしまったというのでは、笑い話にもならない。そこをクリアできれば、大いに楽しめる場所だ。とりわけ秋の紅葉の時期、西法寺森の北斜面からの景色は見ごたえがある。

(8月に登ったところ、スキー場の藪はきれいに刈り払われており迷う心配は少ない。駐車場から石神様までの整備されていた道路は、雨により再び崩れてしまい、自動車では困難だった。)

竹浪 純 記

8/25(火)長平湿地調査報告

去年は一人でしたが、今年は多くの方々にご協力いただいて調査をすることが出来ました。参加くださったのは弘大で水生植物を研究しておられる山岸洋貴先生、トンボ研究家の奈良岡弘治先生をはじめ7名の方々と案内役の竹浪でした。

8時15分鯉ヶ沢スキー場駐車場を出発。車で石神様まで登る予定が、予定外の悪路で、二子沼に向かう道との分岐点に車を置き、そこから歩く羽目に。2時間30分ほどかかって湿地に到達。11時過ぎから13時頃まで2時間調査をしてきました。みなさん、それぞれの専門分野を調べ始めます。ルーペを取り出して細かな違いを調べたり、水中にカメラを入れて様子を撮影したり、ドローンを飛ばして空中から全体の様子を撮影したりと皆さん忙しい。私は、阿部先生が今回参加できなかったのも、水棲昆虫をとにかく一



匹でも捕まえてお土産に持ち帰らなければと、皆さんの様子をゆっくり見ている余裕もなく、金網を貼ったザルで沼のへりを必死に掬い取り、ようやく何種類か捕まえることが出来ました。

採取試料は現在各氏が同定中で、同定され次第情報をいただくことになっております。どんな植物・昆虫が確認されたか楽しみです。

13時過ぎ、湿地から出たところの登山道で昼食、15時45分に駐車場に戻ってきました。一日がかりの調査行でしたが充実感満点でした。

竹浪 純 記

岩木山講座③ ゴマシジミ観察会

ゴマシジミ(蝶)の観察会を11名の参加で8月30日(日)に行いました。暑さ続きの日々から、観察会前日は雨が一時強まり、当日の天気予報も雨マーク。主催者の一人としてとても不安で、観察会の開催について何度も電話で担当者に相談しての開催でした。

参加申し込み者は皆来て下さり、観察会への期待の高さを感じました。阿部東先生のお話にあったように、曇り空の方がゴマシジミの動きがゆっくりで、きれいに写真に撮ることが出来たようです。観察地はススキ、アシが刈り払われた跡のため足元が悪く気を付けながらゆっくり、ゆっくり歩くことになります。互いに、小さな声で「居た、居た。」と、声をかけながら、次々に姿を見せるゴマシジミを観察。

一年に一回のゴマシジミ観察会ですが、色々な方々に支えられての催しです。当会として、地元の了解を得てのススキやアシの刈り払



い。ナガボノシロワレモコウというゴマシジミの食草を保護するための刈り払いで、今年は7月8日に6人の参加、3台の草刈り機で行いました。又、昨年、念願の「ゴマシジミを守ろう！」の看板をミズバショウ沼公園駐車場の看板の隣に設置することができました。その看板も冬の風雪による破損を防ぐため、冬期間は近くの駐車場トイレにしまい、春に再設置する必要があります。今年は4月7日に再設置。これらは、岩木山観光協会が尽力して下さいました。

「観察会」の後、ミズバショウ沼公園の木道を数名で歩きました。木道沿いは草木がジャングル状態に生い茂り圧倒されました。が、ツリフネソウ、キツリフネソウもそれに負けじと勢いよく美しく咲いています。そして、車道近くは刈り払いがされて、ナガボノシロワレモコウが残されて、幹事の荒川さんがゴマシジミを見つけました。歩いて良かったです。豊かな時を過ごすことが出来ました。

藤原 裕貴子記

「ゴマシジミ観察会」に参加して

五所川原市 木村洋志

観察会当日は朝から小雨がぱらつく生憎の天候で、「大丈夫かな？」という気持ちで、現地へと車を走らせました。今回「ゴマシジミ観察会」を知ったのは、たまたま図書館で読んでいた陸奥新報紙面からであり、興味を駆り立てられ応募した次第です。「ゴマシジミ」の名前は聞いたことはありましたが、その生態や生息環境など、実際に確かめたこともなく、ただ単にシジミチョウ科の一種とだけ思っていました。それが、今回、実際に会えるということでワクワク・ドキドキ感を膨らませながらの参加でした。集合場所も岩木山裾野の常盤野地区にあるミズバショウ沼公園駐車場ということで、初めて耳にする場所でした。期待と不安を持ち合わせながら、ナビを利用して何とか現地に着き、観察会スタッフの金枝さんから観察会の流れを聞き、受付を済ませました。その頃には雨も上がり、うすい靄もかかっていたましたが、何とか観察会ができそうな状況でした。他の参加者も集まり始め、いよいよ観察会スタートです。観察会に先立ち、阿部東先生からゴマシジミについてのレクチャーがあり、食草がナガボノシロワレモコウということと、幼虫の生育にアリ(クシケアリ)の存在があるということを話されました。「へえー そうなんだ」と初めて聞くゴマシジミの生態に驚きました。スタッフの方に案内され、道路を隔てた向かい側の嘗て湿地だった場所に入っていく、ゴマシジミの探索が始まりました。レクチャーの中で、今日は雨模様なので気温も低く、飛んでいるゴマシジミを見つけられるかなと阿部先生が仰っていましたが、参加者の中から「いた、いた」という声があがると一斉にそちらの方へ移動して、みんなで確認するという状態でした。食草のナガボノシロワレモコウ目がけて飛び回っているゴマシジミ、花に止まるのを今か今かと待ちわびて、「止まった、止まった」という声に、目で確認しながら、それぞれカメラのシャッターを切っていました。私自身、本物を目にするのは初めてだったので、名前の通り羽裏のゴマ模様を目を奪われながら、スマホで撮ったり、デジカメで撮ったりと無我夢中でした。2時間という時間があっという間にすぎ、童心に帰ってゴマシジミを



追いかけていました。(^o^)

ゴマシジミに会えた今回の観察会、私自身、貴重で楽しく有意義な時間をすごすことができました。駐車場に設置されていた「ゴマシジミを守ろう」という看板にあるように、湿原にすむ貴重な蝶「ゴマシジミ」の保護とともに生息環境維持に心掛けていきたいものだと改めて思った次第です。

ナガボノシロワレモコウ周囲を一生懸命飛んでいるゴマシジミの姿に、力強さと可憐さを感じながら、また会いに来ようと思い現地を後にしました。

お知らせ

残念なお知らせがございます。我会設立当初からの会員で長年幹事を努めた斎藤真人氏が7月末日お亡くなりになりました。斎藤氏は数え切れない程岩木山に登り、特に登山道以外にも良く足を運び岩木山に関する知識はすごくて生き字引のような方でいつも頼りにしていました。外での観察会では常に案内役として参加者の安全に気を配りながら行動していたのを思い出します。また一人会の財産を失いました。本当に残念でなりません。ご冥福をお祈りします。

小堀英憲 記

会員継続と2020年度会費納入のお願い

 平素当会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。今年度の会費を未納の方には引き続き、会員継続とご協力をよろしくお願いいたします。

幹事募集と幹事会への参加呼びかけ

 会の企画・運営に参加してくださる方を募集しています。まずは、毎月第一火曜日(5月は第二火曜日)に開催している幹事会に顔を出してみませんか? 日頃、岩木山についてお気づきのことや考えていることなど、ざっくばらんにお聞かせください。百石町展示館2F 午後6時～。

※編集後記

岩木山にはここ数年登っていないのですが、先日岩手山に登る機会がありました。久々の登山でしたがゆっくりペースだったので楽々登れました。麓には自衛隊の演習場があつて登る途中、自衛隊の戦車砲の爆音がずっと鳴り響いていたのが気になりましたが、登山者も多く8合目には有人の立派な避難小屋もあり、とても登山しやすい山でした。山頂付近は何度も噴火で吹き飛んだかのような地形になっていて、また山頂からは日本で最初の地熱発電所が見えるなど見どころも多く楽しめました。

天気も良く、遠くには鳥海山や早池峰山、八甲田が見えましたが岩木山は残念ながら霞がかかっている見えませんでした。

20年ぶりぐらい二度目の岩手山でしたがたまには地元じゃない山に登るのもいいものですね。でもやはり遠くから見る分には慣れ親しんだ岩木山の美しさには敵わない。津軽人だからでしょうか?

小倉慎吾 記

会報「岩木山を考える」第82号(2020年9月24日)発行／岩木山を考える会

会長 小堀英憲 〒036-8131青森県弘前市千年4-12-15／電話0172-87-1910

事務局長 竹浪 純／電話070-6952-2614

郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会